

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	トレーナー理論 II		
必修選択	必修	(学則表記)	トレーナー理論 II		
開講				単位数	時間数
年次	2 年次	学科	柔整科		32
使用教材	トレーニング指導者テキスト【理論編】改訂版 認定トレーニング指導者模擬問題集改訂版		出版社	大修館書店	

科目の基礎情報②

授業のねらい	1 年次に学んだ理論の知識をより深め、現場で活用できるようにする。				
到達目標	1 年次に学んだ理論の知識をより深め、現場で活用できる。				
評価基準	授業態度、テスト、レポートなどにより評価する。				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者				
関連資格	J A T I 認定トレーニング指導者 (J A T I - A T I)				
関連科目	トレーナー理論 I				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	平間 康允	実務経験	○		
実務内容	修士 (教育学)。高等学校教員免許 (公民)。教育大学での講師、北海道内の高校野球部でのトレーニング指導を始め、ジュニア世代へのメンタルサポート、また、研究者として各種学会での発表をしている。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	6 章運動と心理 2 節スポーツ選手の競技力向上への活用	試合中の気持ちの切り替え、選手を取り巻く人たちに対して
2	6 章運動と心理 3 節一般人の健康増進への活用	各種スポーツとメンタルヘルス、メンタルヘルスと運動・スポーツ
3	6 章運動と心理 4 節一般人の健康増進への活用	メンタルヘルスとスポーツ外傷、青少年スポーツと女性のダイエット
4	6 章運動と心理 5 節一般人の健康増進への活用	社会生活とメンタルヘルス、カウンセリング、体育・スポーツの指導者
5	7 章運動と医学 1 節救急処置法	外傷の応急処置 (皮膚などに傷のないケガの処置)、創傷の応急処置 (皮膚などに傷のあるケガの処置)

6	7 章運動と医学 2 節救急処置法	緊急時の一次救命処置 (BLS)、頭頸部外傷時の救急処置
7	7 章運動と医学 2 節スポーツ選手の整形外科的傷害と予防	スポーツ傷害とは、足部・足関節の傷害
8	7 章運動と医学 2 節スポーツ選手の整形外科的傷害と予防	下腿部の傷害、膝関節の傷害
9	7 章運動と医学 2 節スポーツ選手の整形外科的傷害と予防	大腿部の傷害、腰部の傷害
10	7 章運動と医学 2 節スポーツ選手の整形外科的傷害と予防	肩関節の傷害
11	7 章運動と医学 2 節スポーツ選手の整形外科的傷害と予防	肘関節の傷害、手関節の傷害
12	7 章運動と医学 3 節生活習慣病とその予防	生活習慣病予防と身体活動・運動、肥満
13	7 章運動と医学 3 節生活習慣病とその予防	糖尿病、脂質異常症、高血圧症
14	8 章運動指導の科学 1 節運動指導の科学	動作の成り立ち、 神経系の発達、動作の習得、指導の対象
15	8 章運動指導の科学 1 節運動指導の科学	練習の方法と内容
16	前期末試験前まとめ	前期末試験のフィードバック

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	トレーナー実践 II		
必修選択	必修	(学則表記)	トレーナー実践 II		
開講				単位数	時間数
年次	2 年次	学科	柔整科		32
使用教材	トレーニング指導者テキスト【実践編】改訂版 認定トレーニング指導者模擬問題集改訂版		出版社	大修館書店	

科目の基礎情報②

授業のねらい	1 年次に学んだ実践の知識をより深め、現場で活用できるようにする。				
到達目標	1 年次に学んだ実践の知識をより深め、現場で活用できる。				
評価基準	授業態度、テスト、レポートなどにより評価する。				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者				
関連資格	J A T I 認定トレーニング指導者 (J A T I - A T I)				
関連科目	トレーニング実践 I				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	阿部 修久	実務経験	○		
実務内容	ABC Support 代表。北見市スポーツ推進委員。スポーツトレーナーとして、高校野球部のトレーニング指導を始め、パーソナルトレーナーとしても活躍している。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	3 章各種トレーニング法の実際 2 節パワー向上トレーニングの実際	クイックリフト、ジャンプ系エクササイズ
2	同上	プライオメトリクス
3	同上	フィットネス分野でのパワートレーニング
4	3 章各種トレーニング法の実際 3 節持久力向上トレーニングの実際	持久力向上トレーニングを安全に実施するガイドライン、持久力を向上させる代表的トレーニング手段
5	同上	持久力を向上させる代表的トレーニング方法、持久力に関するトレーニング及び環境

6	3 章各種トレーニング法の実際 4 節スピード向上トレーニングの実際	スピードの概念、スピード向上トレーニングの基本動作
7	同上	スピード向上トレーニングのエクササイズ、ドリルの運用まとめ
8	3 章各種トレーニング法の実際 5 節柔軟性向上トレーニングの実際	スタティックストレッチング、パートナーストレッチング
9	同上	ダイナミックストレッチング、器具を使用したストレッチング、ウォームアップ
10	4 章トレーニング効果の測定と評価 1 節トレーニング効果の測定と評価の実際 2 節測定データの活用とフィードバックの実際	トレーニング指導における測定と評価の意義と目的、測定の一般的留意点、測定と評価の実際
11	同上	測定データを活用するための準備、データの特徴を把握するための記述統計
12	同上	ランキングや得点化による評価法、データ間の関係を把握するための相関分析と回帰分析
13	同上	統計的仮説検定の基礎、トレーニング指導における測定データのフィードバック
14	5 章トレーニングの運営と情報活用 1 節トレーニングの運営	トレーニング機器・器具、トレーニング環境、リスクマネジメント
15	5 章トレーニングの運営と情報活用 2 節運動指導のための情報収集と活用	情報とは、情報の活用、情報の取り扱い
16	前期末試験のフィードバック	前期末試験のフィードバック

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	トレーナー実技 II		
必修選択	必修	(学則表記)	トレーナー実技 II		
開講				単位数	時間数
年次	2 年次	学科	柔整科		32
使用教材	トレーニング指導者テキスト【理論編】改訂版 認定トレーニング指導者模擬問題集改訂版		出版社	大修館書店	

科目の基礎情報②

授業のねらい	1 年次に学んだ実技の知識をより深め、現場で活用できるようにする。				
到達目標	1 年次に学んだ実技の知識をより深め、現場で活用できる。				
評価基準	授業態度、テストなどにより評価する				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者				
関連資格	JATI 認定トレーニング指導者 (JATI-AI)				
関連科目	トレーナー実技 I				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	木下 美来	実務経験	○		
実務内容	JATI 認定トレーニング指導者の資格を取得しスポーツクラブで勤務した後、本校の教育に携わる。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	5.スピードトレーニング	実施と指導上の留意点
2	同上	ランニングスピード向上のトレーニング
3	同上	アジリティ向上トレーニング
4	6.バランス能力・姿勢維持能力向上のトレーニング	実施と指導上の留意点
5	同上	静的なバランス能力・姿勢支持能力向上のトレーニング
6	同上	動的なバランス能力・姿勢支持能力向上のトレーニング

7	同上	その他のバランス能力・姿勢支持能力向上のトレーニング
8	7.ウォームアップのための運動	実施と指導上の留意点
9	同上	セルフエクササイズ系
10	同上	ウォーキング系、スキップ系
11	同上	ステップ系
12	同上	バランス系
13	同上	スピード系
14	同上	実施と指導上の留意点
15	8.形態・体力測定	形態測定、体力測定
16	前期末試験のフィードバック	前期末試験のフィードバック

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	機能訓練指導員理論		
必修選択	必修	(学則表記)	機能訓練指導員理論		
開講				単位数	時間数
年次	2 年次	学科	柔整科	2	32
使用教材	健康運動実践指導者養成用テキスト 第 8 刷		出版社	健康・体力づくり事業財団	

科目の基礎情報②

授業のねらい	機能訓練指導員に必要な基礎理論を学ぶ				
到達目標	機能訓練指導員に必要な基礎理論を説明できる				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者				
関連資格	柔道整復師、機能訓練指導員				
関連科目	機能訓練指導員 実践				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	川端 里香	実務経験			
実務内容	修士（人間福祉学）。社会福祉を専門とし、大学、専門学校、高校の非常勤講師を歴任。高校では「家庭」の授業を担当している。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	健康づくり施策概論	健康と健康増進の概念
2	健康づくり施策概論	我が国の現状と健康づくり施策
3	健康づくり施策概論	生活習慣病とメタボリックシンドローム
4	健康づくり施策概論	介護予防について、メディカルチェックについて
5	運動生理学	運動の発現、筋収縮の様式と筋力
6	運動生理学	運動に伴う呼吸循環機能の変化

7	運動生理学	運動時の酸素利用
8	運動生理学	トレーニングによる呼吸循環系の適応、運動と血液・体液
9	栄養摂取と運動	健康と栄養、運動時におけるエネルギー源
10	栄養摂取と運動	エネルギー消費量の推定法
11	栄養摂取と運動	適切な減量生活
12	栄養摂取と運動	日本人の食事摂取基準と食生活指針
13	体力測定と評価	無酸素性能力の測定、有酸素性能力の測定、最大酸素摂取量の測定
14	体力測定と評価	体脂肪量の測定、新体力テスト、健康づくりのための運動指針
15	試験前授業	試験前対策
16	試験後授業	試験後の振り返り
17	健康づくりと運動プログラム	健康づくりのための身体活動基準、健康づくりのためのトレーニングの原則
18	健康づくりと運動プログラム	運動プログラムの作成上のポイント
19	健康づくりと運動プログラム	運動プログラム作成の基礎
20	健康づくりと運動プログラム	ウォームアップとクールダウン、有酸素性運動とその効果
21	運動指導の心理学的基礎	運動実践にかかわる社会・心理・環境的要因
22	運動指導の心理学的基礎	運動実践によって得られる効果、運動の採択、継続及び停止の予防
23	運動指導の心理学的基礎	多くの参加者を得るための留意点、指導と受講のミスマッチと解決方法
24	運動指導の心理学的基礎	個別指導における動機づけとカウンセリング
25	健康づくり運動の実際	健康運動実践指導者に必要な能力

26	健康づくり運動の実際	運動指導の流れ
27	健康づくり運動の実際	ウォームアップとクールダウン
28	健康づくり運動の実際	ストレッチング、ウォーキング、水泳・水中運動
29	運動障害と予防・救急処置	運動中止の判定
30	運動障害と予防・救急処置	救急処置
31	試験前授業	試験前対策
32	試験後授業	試験後の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	機能訓練指導員実践		
必修選択	必修	(学則表記)	機能訓練指導員実践		
開講				単位数	時間数
年次	2 年次	学科	柔整科		32
使用教材	健康運動実践指導者養成用テキスト 第 8 刷		出版社	健康・体力づくり事業財団	

科目の基礎情報②

授業のねらい	機能訓練指導員に必要な指導技術を学ぶ				
到達目標	機能訓練指導員に必要な指導技術を実践できる				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者				
関連資格	柔道整復師、機能訓練指導員				
関連科目	機能訓練指導員 理論				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	阿部 修久	実務経験	○		
実務内容	ABC Support 代表。北見市スポーツ推進委員。スポーツトレーナーとして、高校野球部のトレーニング指導を始め、パーソナルトレーナーとしても活躍している。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	軽体操のプログラム立案・指導練習	軽体操のプログラムを立案し、生徒自身が実践しながら指導を練習する。
2	軽体操のプログラム立案・指導練習	軽体操のプログラムを立案し、生徒自身が実践しながら指導を練習する。
3	低負荷運動のプログラム立案・指導練習	低負荷運動のプログラムを立案し、生徒自身が実践しながら指導を練習する。
4	低負荷運動のプログラム立案・指導練習	低負荷運動のプログラムを立案し、生徒自身が実践しながら指導を練習する。
5	低～中負荷運動のプログラム立案・指導練習	低～中負荷運動のプログラムを立案し、生徒自身が実践しながら指導を練習する。
6	低～中負荷運動のプログラム立案・指導練習	低～中負荷運動のプログラムを立案し、生徒自身が実践しながら指導を練習する。

7	中～高負荷運動のプログラム立案・指導練習	中～高負荷運動のプログラムを立案し、生徒自身が実践しながら指導を練習する。
8	中～高負荷運動のプログラム立案・指導練習	中～高負荷運動のプログラムを立案し、生徒自身が実践しながら指導を練習する。
9	コンディショニング期における高齢者トレーニング指導練習	コンディショニング期における高齢者トレーニングのプログラムを立案し、生徒自身が実践しながら指導を練習する。
10	コンディショニング期における高齢者トレーニング指導練習	コンディショニング期における高齢者トレーニングのプログラムを立案し、生徒自身が実践しながら指導を練習する。
11	筋力向上期における高齢者トレーニング指導練習	筋力向上期における高齢者トレーニングのプログラムを立案し、生徒自身が実践しながら指導を練習する。
12	筋力向上期における高齢者トレーニング指導練習	筋力向上期における高齢者トレーニングのプログラムを立案し、生徒自身が実践しながら指導を練習する。
13	機能改善期における高齢者トレーニング指導練習	機能改善期における高齢者トレーニングのプログラムを立案し、生徒自身が実践しながら指導を練習する。
14	高齢者指導のシミュレーション	高齢者に対する運動指導の全般をシミュレーションする
15	試験前授業	試験前対策
16	試験後授業	試験後振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	運動学		
必修選択	必修	(学則表記)	運動学		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	柔整科		32
使用教材	運動学		出版社	医歯薬出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	<p>正常運動から逸脱した運動機能の障害による異常運動を扱うために、運動分析に基づく評価を学ぶ。</p> <p>柔道整復師として、運動障害をもつ患者に対して適切な施術を行うために、人間の運動に関わる身体の機能と構造について基本的な知識を理解する。</p> <p>一年次に学習した解剖学、生理学の基礎知識を基に運動器について総合的な理解を深める。</p>				
到達目標	<p>正常運動から逸脱した運動機能の障害による異常運動を理解できる。</p> <p>運動分析に基づく評価が実践できる。</p>				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	<p>出席が総時間数の3分の2以上ある者</p> <p>成績評価が3以上の者</p>				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	解剖学、生理学				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	高田 雄一	実務経験	○		
実務内容	北海道文教大学 人間科学部 理学療法学科 教授。理学療法士として、運動器理学療法、特に徒手療法とインソール（足底板）に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	基礎力学	運動の表示方法、運動の面と軸、運動の法則（慣性の法則、加速度の法則、作用反作用の法則、重力加速度、力の単位）、人体における挺子
2	基礎力学	運動の表示方法、運動の面と軸、運動の法則（慣性の法則、加速度の法則、作用反作用の法則、重力加速度、力の単位）、人体における挺子
3	基礎力学	運動の表示方法、運動の面と軸、運動の法則（慣性の法則、加速度の法則、作用反作用の法則、重力加速度、力の単位）、人体における挺子
4	基礎力学	運動の表示方法、運動の面と軸、運動の法則（慣性の法則、加速度の法則、作用反作用の法則、重力加速度、力の単位）、人体における挺子
5	運動の神経機構	神経の構造と機能、運動感覚、反射、随意運動

6	運動の神経機構	神経の構造と機能、運動感覚、反射、随意運動
7	上肢の運動	骨格、関節の構造、筋の起始停止、神経、作用
8	上肢の運動	骨格、関節の構造、筋の起始停止、神経、作用
9	下肢の運動	骨格、関節の構造、筋の起始停止、神経、作用
10	下肢の運動	骨格、関節の構造、筋の起始停止、神経、作用
11	体幹の運動	骨格、関節の構造、筋の起始停止、神経、作用
12	体幹の運動	骨格、関節の構造、筋の起始停止、神経、作用
13	姿勢	立位姿勢、重心
14	歩行	歩行周期、小児の歩行、異常歩行
15	運動発達、運動学習	乳児期の神経学的発達、原始反射
16	試験後授業	解答、解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	病理学概論		
必修選択	必修	(学則表記)	病理学概論		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	柔整科		32
使用教材	病理学概論		出版社	医歯薬出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	柔道整復師を目指して学習している学生諸氏が、病理学の勉強を通して疾病における細胞、組織、臓器の形態変化を理解し、将来の医療従事者としての素養及び医学的知識の基礎となるように、解剖生理学・組織学も含めた総合的な理解を深めることを目的とする。				
到達目標	柔道整復師として必要な病理学の知識を理解し説明できる。				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	生理学、一般臨床医学				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	近藤 啓	実務経験	○		
実務内容	札幌医科大学附属病院病理部・検査部で臨床検査技師として勤務後、北海道医療大学で講師として勤務。臨床検査技師。医学研究科博士課程。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	病理学の意義	病理学とは
2	疾病の一般	疾病の意義と分類、症候の意義と分類、疾病の経過予後転帰
3	病因	病因の一般、内因、外因
4	退行性病変	退行性病変の定義、萎縮、変性、壊死
5	循環障害	血液の循環障害、リンパ液の循環障害

6	循環障害	血液の循環障害、リンパ液の循環障害
7	進行性病変	進行性病変の定義、肥大、過形成、再生、化生、移植、創傷治癒組織内異物処理
8	進行性病変	進行性病変の定義、肥大、過形成、再生、化生、移植、創傷治癒組織内異物処理
9	炎症	炎症の一般、炎症の分類
10	炎症	炎症の一般、炎症の分類
11	免疫異常、アレルギー	免疫のしくみ、免疫不全、自己免疫異常、アレルギー
12	免疫異常、アレルギー	免疫のしくみ、免疫不全、自己免疫異常、アレルギー
13	腫瘍	腫瘍、腫瘍の分類
14	先天性異常	先天性異常総論、奇形の原因、奇形成立の時期、奇形の種類
15	運動器の病理	骨の病理、関節の病理、骨格筋
16	試験後授業	解答、解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	一般臨床医学		
必修選択	必修	(学則表記)	一般臨床医学		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	柔整科		64
使用教材	一般臨床医学		出版社	医歯薬出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	柔道整復術が施術できる業務範囲は負傷原因が明らかにされた外傷であり、おのずと施術範囲は制限されるが、現代医学の病理学的背景に裏付けられた疾病分類など幅広い知識を身につけ、国家資格として担うべき十分なレベルを満たし、社会に貢献できる柔道整復師を育成することを目的とする。				
到達目標	柔道整復師に必要な一般臨床医学の知識を理解し説明できる。				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	生理学、病理学				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	大西 俊介／半田 悠	実務経験	○		
実務内容	大西 俊介：医師として様々な病院を歴任。北海道大学大学院薬学研究院分子細胞医薬学 教授。 半田 悠：医師として北海道大学医学研究院生化学分野分子生物学教室にて勤務。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	診察概論各論	問診、視診、打診、聴診、触診
2	診察概論各論	問診、視診、打診、聴診、触診
3	診察概論各論	問診、視診、打診、聴診、触診
4	診察概論各論	問診、視診、打診、聴診、触診
5	診察概論各論	問診、視診、打診、聴診、触診

6	診察概論各論	測定法、体温、血圧、脈拍、呼吸
7	診察概論各論	測定法、体温、血圧、脈拍、呼吸
8	診察概論各論	測定法、体温、血圧、脈拍、呼吸
9	診察概論各論	測定法、体温、血圧、脈拍、呼吸
10	診察概論各論	知覚検査、反射検査、検査法、薬物療法、患者の心理
11	診察概論各論	知覚検査、反射検査、検査法、薬物療法、患者の心理
12	診察概論各論	知覚検査、反射検査、検査法、薬物療法、患者の心理
13	診察概論各論	知覚検査、反射検査、検査法、薬物療法、患者の心理
14	診察概論各論	知覚検査、反射検査、検査法、薬物療法、患者の心理
15	診察概論各論	知覚検査、反射検査、検査法、薬物療法、患者の心理
16	試験後授業	解答、解説
17	主要な疾患	消化器疾患
18	主要な疾患	消化器疾患
19	主要な疾患	呼吸器疾患
20	主要な疾患	呼吸器疾患
21	主要な疾患	循環器疾患
22	主要な疾患	循環器疾患
23	主要な疾患	血液疾患
24	主要な疾患	血液疾患

25	主要な疾患	内分泌疾患
26	主要な疾患	内分泌疾患
27	主要な疾患	代謝疾患、アレルギー、膠原病
28	主要な疾患	代謝疾患、アレルギー、膠原病
29	主要な疾患	腎尿路疾患、神経系疾患、遺伝、その他
30	主要な疾患	腎尿路疾患、神経系疾患、遺伝、その他
31	主要な疾患	腎尿路疾患、神経系疾患、遺伝、その他
32	試験後授業	解答、解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	外科学概論		
必修選択	必修	(学則表記)	外科学概論		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	柔整科	2	32
使用教材	外科学概論		出版社	南江堂	

科目の基礎情報②

授業のねらい	柔道整復師の教育にあって外科学の占める割合は多くはないが、外科学の基礎的な知識を理解、習得することで、国家資格として担うべき外科学的知識レベルを満たす必要がある。また、資格取得後の日常臨床の場での適切な施術につなげることを目的とする。				
到達目標	外科学の基礎的な知識を理解し説明できる。				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	整形外科学、一般臨床医学、リハビリテーション医学				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	半田 悠	実務経験	○		
実務内容	医師として北海道大学医学研究院生化学分野分子生物学教室にて勤務。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	総論	損傷外傷
2	総論	炎症
3	総論	腫瘍
4	総論	ショック
5	総論	輸血、輸液

6	総論	滅菌と消毒
7	総論	手術、麻酔
8	総論	移植と免疫
9	総論	出血と止血、蘇生術
10	総論	脳神経外科疾患
11	各論	胸壁肺縦隔疾患
12	各論	乳腺疾患
13	各論	心臓疾患脈管疾患
14	各論	心臓疾患脈管疾患
15	各論	腹部外科疾患
16	試験後授業	解答、解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	整形外科		
必修選択	必修	(学則表記)	整形外科		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	柔整科	2	32
使用教材	整形外科		出版社	南江堂	

科目の基礎情報②

授業のねらい	整形外科は一言でいえば、運動器の医学であるが、その他にも肢体不自由児の療育、スポーツ医学、義肢・舗装具学、リハビリテーション医学など整形外科が関与する領域は大きい。ここでは、柔道整復師として必要な整形外科的知識を身につけ、国家資格として担うべき十分なレベルを満たし、社会に貢献できる柔道整復師を育成することを目的とする。				
到達目標	柔道整復師として必要な整形外科的知識を理解し説明できる。				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	解剖学、外科学概論、リハビリテーション医学				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	安念 俊二	実務経験	○		
実務内容	医療法人社団 翔仁会 輪厚三愛病院 院長として勤務する傍ら、医療系専門学校の講師を歴任。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	総論	整形外科の意義と歴史、運動器の基礎知識
2	総論	整形外科診断学治療法
3	総論	骨関節損傷総論
4	総論	スポーツ整形外科総論、リハビリテーション医学総論
5	疾患別各論	感染性疾患

6	疾患別各論	非感染性軟部関節疾患
7	疾患別各論	全身性の骨軟部疾患、骨端症、四肢循環障害
8	疾患別各論	神経筋の系統疾患
9	身体部位別各論	体幹、肩甲帯及び上肢の疾患
10	身体部位別各論	上腕及び肘関節
11	身体部位別各論	前腕、手関節及び手手指
12	身体部位別各論	骨盤及び下肢の疾患
13	身体部位別各論	大腿及び膝関節
14	身体部位別各論	下腿及び足関節
15	身体部位別各論	足及び足趾
16	試験後授業	解答、解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	リハビリテーション医学		
必修選択	必修	(学則表記)	リハビリテーション医学		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	柔整科		32
使用教材	リハビリテーション医学		出版社	南江堂	

科目の基礎情報②

授業のねらい	<p>少子高齢化の進む我が国において、リハビリテーション医学の重要性はますます高まっている。このリハビリテーション医学は医師だけで行えるものではなく、理学療法士、作業療法士を中心に様々なその他の専門職（コ・メディカル）が関わってチームで行っていかなければならない。我々、柔道整復師も介護保険施行後、機能訓練指導員として主に慢性期のリハビリテーションにより多く関わるようになったため、リハビリテーション医学の十分な知識と技術を身につけ習得することが目的である。</p>				
到達目標	<p>リハビリテーション医学の知識を理解し説明できる。 リハビリテーション医学の技術を理解し実施できる。</p>				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	解剖学、生理学、整形外科				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	池野 秀則	実務経験	○		
実務内容	北海道文教大学 人間科学部 理学療法学科 教授。理学療法士として、北海道理学療法士会、認知神経リハビリテーション学会に所属。恵庭市介護認定審査会委員、札幌医大主催メディカルスタッフのための運動器解剖セミナー インストラクターとしても活動。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	リハビリテーション医学と概念歴史	リハビリテーションの概念、リハビリテーションの歴史、リハビリテーションと医学的リハビリテーション、医学的リハビリテーションとリハビリテーション医学、リハビリテーション医学の対象
2	リハビリテーション医学の基礎知識	運動学と機能解剖、障害学、治療学
3	リハビリテーション医学の評価と診断	患者の捉え方、身体計測、関節可動域測定法、徒手筋力テスト、中枢神経運動障害の評価法、小児運動発達の評価法、協調性テスト、失認と失行の評価法、心理評価、日常生活動作の評価、電気生理学的診断法、画像診断

4	リハビリテーションの治療	理学療法、作業療法、補装具、言語治療、
5	リハビリテーション医学と関連職種	リハビリテーション医、理学療法士、作業療法士など
6	リハビリテーションの実際	脳卒中、脊髄損傷、小児疾患、切断、末梢神経損傷、慢性関節リウマチ、整形外科疾患、心疾患、呼吸器疾患、老人のリハビリテーション
7	リハビリテーションと福祉	老人福祉法、児童福祉法などの関係法令
8	リハビリテーションの概念と歴史	リハビリテーションの概念、リハビリテーションの歴史
9	リハビリテーション医学	リハビリテーションと医学的リハビリテーション、医学的リハビリテーションとリハビリテーション医学、リハビリテーション医学の対象
10	リハビリテーション医学の基礎知識	運動学と機能解剖、障害学、治療学
11	リハビリテーション医学の評価と診断	患者の捉え方、身体計測、関節可動域測定法、徒手筋力テスト、中枢神経運動障害の評価法、小児運動発達の評価法、協調性テスト、失認と失行の評価法、心理評価、日常生活動作の評価、電気生理学的診断法、画像診断
12	リハビリテーションの治療	理学療法、作業療法、補装具、言語治療、
13	リハビリテーション医学と関連職種	リハビリテーション医、理学療法士、作業療法士など
14	リハビリテーションの実際	脳卒中、脊髄損傷、小児疾患、切断、末梢神経損傷、慢性関節リウマチ、整形外科疾患、心疾患、呼吸器疾患、老人のリハビリテーション
15	リハビリテーションと福祉	老人福祉法、児童福祉法などの関係法令
16	試験後授業	解答、解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	柔道II		
必修選択	必修	(学則表記)	柔道II		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	柔整科		64
使用教材				出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	柔道整復術は現代柔道の元となった柔術(古武術)の技(活殺法)に由来しており、そのルーツを同じくする柔道に技術及び精神面において多くの共通点や影響がみられる。柔道整復師として柔道を正しく理解し、その源を学ぶとともに、健全な身体の育成及び礼節をわきまえた人格を形成することを目的とする。				
到達目標	柔道整復師として柔道を正しく行うことができる。 健全な身体の育成及び礼節をわきまえた人格を形成している。				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	柔道整復理論、柔道整復実技				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	海野 幸司	実務経験	○		
実務内容	柔道整復師、はり師、きゅう師として整骨院院長を務める傍ら、柔道整復師養成校の教員を歴任。北海道柔道整復師会、北海道鍼灸師会所属。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	基礎動作	柔道小史、受身、組み方、移動法、体捌き、崩し
2	基礎動作	柔道小史、受身、組み方、移動法、体捌き、崩し
3	対人的技能(投げ技)	出足払、膝車、支釣込足
4	対人的技能(投げ技)	出足払、膝車、支釣込足
5	対人的技能(投げ技)	浮き落とし

6	对人的技能 (投げ技)	浮き落とし
7	对人的技能 (投げ技)	背負投肩車
8	对人的技能 (投げ技)	背負投肩車
9	对人的技能 (投げ技)	浮腰
10	对人的技能 (投げ技)	浮腰
11	对人的技能 (投げ技)	払腰
12	对人的技能 (投げ技)	払腰
13	对人的技能 (投げ技)	釣込腰
14	对人的技能 (投げ技)	釣込腰
15	試験前授業	まとめ、復習
16	試験後授業	振り返り、総評
17	对人的技能 (投げ技)	送足払
18	对人的技能 (投げ技)	送足払
19	对人的技能(投げ技)	支釣込腰
20	对人的技能(投げ技)	支釣込腰
21	对人的技能(投げ技)	内股
22	对人的技能(投げ技)	内股
23	応用動作	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り
24	応用動作	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り

25	応用動作	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り
26	応用動作	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り
27	応用動作	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り
28	応用動作	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り
29	応用動作	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り
30	応用動作	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り
31	試験前授業	まとめ、復習
32	試験後授業	振り返り、総評

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	関係法規		
必修選択	必修	(学則表記)	関係法規		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	柔整科	1	16
使用教材	関係法規		出版社	医歯薬出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	柔道整復師は厚生労働大臣の免許を受けた業務独占資格であり、その業務に従事するにあたり法令を理解し遵守しなければならないことは言うまでもない。ここでは、柔道整復師法(罰則を含む)および医療を中心にその関係法規の学習を通して、法の種類や体系などの基本的理解および医療従事者としての倫理観の理解を目的とする。				
到達目標	柔道整復師に関わる法律を理解し説明できる。 医療従事者としての倫理観を形成する。				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	柔道整復理論				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	萩原 和香奈	実務経験	○		
実務内容	柔道整復師・はり師・きゅう師の免許を取得し、整骨院にて勤務後、柔道整復師専科教員の資格を所有し、柔道整復師養成校の教員を歴任。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	概論	法の意義、法の体系、柔道整復師法および柔道整復に関する法規、柔道整復師と患者の権利
2	概論	法の意義、法の体系、柔道整復師法および柔道整復に関する法規、柔道整復師と患者の権利
3	柔道整復師法とその関連内容	総則
4	柔道整復師法とその関連内容	免許
5	柔道整復師法とその関連内容	柔道整復師試験

6	柔道整復師法とその関連内容	業務
7	柔道整復師法とその関連内容	施術所
8	柔道整復師法とその関連内容	雑則、罰則
9	柔道整復師法とその関連内容	指定登録機関及び指定試験機関、附則
10	関係法規	医療法
11	関係法規	医療法
12	関係法規	医療法
13	関係法規	医療従事者の資格法、その他の関係法規
14	関係法規	医療従事者の資格法、その他の関係法規
15	関係法規	医療従事者の資格法、その他の関係法規
16	試験後授業	解答、解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	柔道整復理論Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	柔道整復理論Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	柔整科	3	48
使用教材	柔道整復学・理論編		出版社	南江堂	

科目の基礎情報②

授業のねらい	1年次で学んだ柔道整復学の基礎の部分の知識を定着させて、今後の学習・将来に活かす。 また外傷の保存療法について深く学ぶ。				
到達目標	1年次で学んだ柔道整復学の基礎の部分の知識を理解し説明できる。 外傷の保存療法について理解し説明できる。				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	解剖学、生理学、柔道整復実技				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	林 公子	実務経験	○		
実務内容	専門学校卒業後、整骨院で勤務。柔道整復師専科教員免許を取得し、柔道整復師養成校の教員を歴任。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	骨の損傷	骨の形態と機能骨損傷の概説
2	骨の損傷	骨損傷の分類
3	骨の損傷	骨折の症状
4	骨の損傷	骨折の合併症
5	骨の損傷	小児骨折高齢者骨折の特徴
6	骨の損傷	骨折の癒合日数治療経過

7	骨の損傷	骨折の予後治療に影響を与える因子
8	関節の損傷	関節の構造と形態関節損傷の概説
9	関節の損傷	関節損傷の分類損傷される組織鑑別診断を要する類症
10	関節の損傷	関節構成組織損傷
11	関節の損傷	脱臼
12	筋の損傷	筋の形態と機能
13	筋の損傷	筋損傷の概説分類症状
14	筋の損傷	筋損傷の治療機序予後
15	腱の損傷	腱の構造と機能、腱損傷の概説分類腱損傷の症状機序
16	試験後授業	解答、解説
17	末梢神経の損傷	神経の構造と機能、神経損傷の概説分類
18	末梢神経の損傷	末梢神経損傷の症状治癒過程
19	診察	診察時の注意点、手順の概説
20	診察	時期による分類、治療計画の作成、施術録の扱いと記載
21	整復法	徒手整復施行時の配慮
22	整復法	骨折の整復法
23	整復法	脱臼の整復法、徒手整復後の確認と配慮
24	整復法	軟部組織損傷の初期処置
25	固定法	固定施行時の配慮

26	固定法	固定後の配慮
27	後療法	用量、患者の準備、手技療法
28	後療法	運動療法
29	後療法	物理療法
30	後療法	指導管理
31	外傷の保存療法	外傷の保存療法
32	試験後授業	解答、解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	臨床柔道整復学 I		
必修選択	必修	(学則表記)	臨床柔道整復学 I		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	柔整科		96
使用教材	柔道整復学・理論編		出版社	南江堂	

科目の基礎情報②

授業のねらい	柔道整復術は国民医療の一端として広く大衆に受け入れられ、民族医学として伝承されてきた。1年次に学んだ柔道整復理論をもとに、柔道整復師が扱う外傷の上肢の部分を中心として学び、専門的な柔道整復学の正しい理解と習得を目的とする。				
到達目標	柔道整復師が扱う外傷で、上肢の知識を理解し説明できる。				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	柔道整復理論、柔道整復実技				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	齊藤 桂治/加藤 雄大	実務経験	○		
実務内容	齊藤 桂治：柔道整復師、はり師、きゅう師として整骨院院長を務める傍ら、柔道整復師養成校の教員を歴任。北海道柔道整復師会。加藤 雄大：専門学校卒業後、柔道整復師として整骨院、整形外科で勤めた後、柔道整復師専科教員の資格を取得し、学校教育に携わる。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	鎖骨部の損傷	機能と解剖
2	鎖骨部の損傷	鎖骨骨折
3	鎖骨部の損傷	鎖骨の脱臼、注意すべき疾患
4	肩関節部の損傷	解剖と機能
5	肩関節部の損傷	肩甲骨の骨折

6	肩関節部の損傷	上腕骨近位部の骨折
7	肩関節部の損傷	肩関節脱臼
8	肩関節部の損傷	肩関節部の軟部組織損傷、注意すべき疾患
9	上腕部の損傷	解剖と機能
10	上腕部の損傷	上腕骨骨幹部骨折
11	上腕部の損傷	上腕部の軟部組織損傷、注意すべき疾患
12	肘関節部の損傷	解剖と機能、上腕骨遠位部の骨折
13	肘関節部の損傷	前腕骨近位部の骨折
14	肘関節部の損傷	肘関節の脱臼
15	肘関節部の損傷	肘関節部の軟部組織損傷
16	試験後授業	解答、解説
17	前腕部の損傷	解剖と機能
18	前腕部の損傷	前腕骨骨幹部骨折
19	前腕部の損傷	前腕部の軟部組織損傷
20	手関節部の損傷	解剖と機能
21	手関節部の損傷	前腕骨遠位端部骨折
22	手関節部の損傷	手根骨部の骨折
23	手関節部の損傷	手関節部の脱臼
24	手関節部の損傷	手関節部の軟部組織損傷

25	手指部の損傷	解剖と機能
26	手指部の損傷	中手骨の骨折
27	手指部の損傷	手根中手関節の脱臼
28	手指部の損傷	指骨の骨折
29	手指部の損傷	中手指節関節、指節間関節の脱臼
30	手指部の損傷	手部、指部の軟部組織損傷
31	手指部の損傷	注意すべき疾患
32	試験後授業	解答、解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	臨床柔道整復学Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	臨床柔道整復学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	柔整科		96
使用教材	柔道整復学・理論編		出版社	南江堂	

科目の基礎情報②

授業のねらい	柔道整復術は国民医療の一端として広く大衆に受け入れられ、民族医学として伝承されてきた。1年次に学んだ柔道整復理論をもとに、柔道整復師が扱う外傷の下肢の部分を中心として学び、専門的な柔道整復学の正しい理解と習得を目的とする。				
到達目標	柔道整復師が扱う外傷で、下肢の知識を理解し説明できる。				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	柔道整復理論、柔道整復実技				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	旭岡 健斗／林 公子	実務経験	○		
実務内容	旭岡 健斗：柔道整復師。札幌スポーツ&メディカル専門学校併設院 みらい整骨院 院長。北海道柔道整復師会所属。 林 公子：専門学校卒業後、整骨院で勤務。柔道整復師専科教員免許を取得し、柔道整復師養成校の教員を歴任。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	骨盤部の損傷	解剖と機能
2	骨盤部の損傷	骨盤骨骨折
3	骨盤部の損傷	注意すべき疾患
4	股関節部の損傷	解剖と機能
5	股関節部の損傷	大腿骨近位部の骨折

6	股関節部の損傷	股関節脱臼
7	股関節部の損傷	股関節部の軟部組織損傷
8	股関節部の損傷	解剖と機能、大腿骨骨幹部の骨折
9	股関節部の損傷	大腿部の軟部組織損傷
10	膝関節部の損傷	解剖と機能、大腿骨遠位部の骨折
11	膝関節部の損傷	下腿骨近位部の骨折
12	膝関節部の損傷	膝関節脱臼（それに伴う複合靭帯損傷）
13	膝関節部の損傷	膝蓋骨の骨折
14	膝関節部の損傷	膝関節部の軟部組織損傷
15	膝関節部の損傷	注意すべき疾患
16	試験後授業	解答、解説
17	下腿部の損傷	解剖と機能
18	下腿部の損傷	下腿骨幹部の骨折
19	下腿部の損傷	下腿部の軟部組織損傷
20	下腿部の損傷	注意すべき疾患
21	足関節部の損傷	解剖と機能
22	足関節部の損傷	下腿遠位部の骨折
23	足関節部の損傷	足根骨部の骨折
24	足関節部の損傷	足関節部の脱臼

25	足関節部の損傷	足関節部の軟部組織損傷
26	足関節部の損傷	注意すべき疾患
27	足趾部の損傷	解剖と機能
28	足趾部の損傷	中足骨の骨折
29	足趾部の損傷	足根部の脱臼と軟部組織損傷
30	足趾部の損傷	中足趾節関節、趾節間関節の脱臼
31	足趾部の損傷	足趾部の軟部組織損傷
32	試験後授業	解答、解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	臨床柔道整復学Ⅲ		
必修選択	必修	(学則表記)	臨床柔道整復学Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	柔整科	4	64
使用教材	柔道整復学・理論編		出版社	南江堂	

科目の基礎情報②

授業のねらい	柔道整復術は国民医療の一端として広く大衆に受け入れられ、民族医学として伝承されてきた。1年次に学んだ柔道整復理論をもとに、柔道整復師が扱う外傷の頭部・体幹の部分を中心として学び、専門的な柔道整復学の正しい理解と習得を目的とする。				
到達目標	柔道整復師が扱う外傷で、頭部体幹の知識を理解し説明できる。				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	柔道整復理論、柔道整復実技				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	渡辺 弘三	実務経験	○		
実務内容	柔道整復師。ケアマネージャー。国立療養所リハビリテーション部勤務を経て、整骨院を開業。その後、柔道整復師養成校の教員を歴任。柔道七段。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	頭部、顔面部の損傷	解剖と機能
2	頭部、顔面部の損傷	頭部、顔面部の骨折
3	頭部、顔面部の損傷	顎関節脱臼
4	頭部、顔面部の損傷	頭部、顔面部の軟部組織損傷
5	頰部の損傷	解剖と機能

6	頸部の損傷	頸椎の骨折
7	頸部の損傷	頸椎脱臼
8	頸部の損傷	頸部の軟部組織損傷
9	頸部の損傷	注意すべき疾患
10	頭部～頸部の損傷の復習	頭部～頸部の損傷の復習
11	頭部～頸部の損傷の復習	頭部～頸部の損傷の復習
12	頭部～頸部の損傷の復習	頭部～頸部の損傷の復習
13	頭部～頸部の損傷の復習	頭部～頸部の損傷の復習
14	頭部～頸部の損傷の復習	頭部～頸部の損傷の復習
15	頭部～頸部の損傷の復習	頭部～頸部の損傷の復習
16	試験後授業	解答、解説
17	胸、背部の損傷	解剖と機能
18	胸、背部の損傷	胸部の骨折
19	胸、背部の損傷	胸椎の骨折
20	胸、背部の損傷	胸椎の脱臼
21	胸、背部の損傷	胸、背部の軟部組織損傷
22	胸、背部の損傷	その他の疾患、注意すべき疾患
23	腰部の損傷	解剖と機能
24	腰部の損傷	腰椎の骨折

25	腰部の損傷	腰椎の脱臼
26	腰部の損傷	腰部の軟部組織損傷
27	腰部の損傷	その他の疾患、注意すべき疾患
28	頭部～腰部の損傷の総復習	頭部～腰部の損傷の総復習
29	頭部～腰部の損傷の総復習	頭部～腰部の損傷の総復習
30	頭部～腰部の損傷の総復習	頭部～腰部の損傷の総復習
31	頭部～腰部の損傷の総復習	頭部～腰部の損傷の総復習
32	試験後授業	解答、解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	柔道整復実技Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	柔道整復実技Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	柔整科		128
使用教材	柔道整復学・理論編		出版社	南江堂	

科目の基礎情報②

授業のねらい	柔道整復術は国民医療の一端として広く大衆に受け入れられ、民族医学として伝承されてきた。1年次に学んだ柔道整復理論をもとに、柔道整復師が扱う外傷を実技を中心として学び、実践的な柔道整復学の正しい理解と習得を目的とする。また、ここでは整復法及び固定法のみならず、評価法および検査法などの手技の習得も重視した講義を行う。				
到達目標	各運動器疾患に対する適切な評価法や検査法、整復法や固定法を理解し実施できる。				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	解剖学、柔道整復理論				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	齊藤 桂治／渡辺 弘三／大山 ちあき	実務経験	○		
実務内容	齊藤 桂治：柔道整復師、はり師、きゅう師として整骨院院長を務める傍ら、柔道整復師養成校の教員を歴任。 渡辺 弘三：柔道整復師。ケアマネージャー。国立療養所リハビリテーション部勤務を経て、整骨院を開業。その後、柔道整復師養成校の教員を歴任。柔道七段。 大山 ちあき：鍼灸師、柔道整復師の免許を取得し、整骨院にて勤務後、柔道整復師専科教員の資格を所有し、学校教育に携わる。柔道初段。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	基本包帯法	手から肘、肘から肩、足から膝
2	冠名包帯	デゾー帯
3	冠名包帯	ヴェルポー帯
4	冠名包帯	ジュール帯

5	上肢骨折	鎖骨骨折
6	上肢骨折	外科頸骨折
7	上肢骨折	コーレス骨折
8	上肢脱臼	肩鎖関節脱臼
9	上肢脱臼	肩関節脱臼
10	上肢脱臼	肘関節脱臼
11	上肢脱臼	肘内障
12	上肢の軟部組織損傷	腱板損傷
13	上肢の軟部組織損傷	上腕二頭筋腱損傷
14	下肢軟部組織損傷	大腿部肉離れ
15	下肢軟部組織損傷	膝側副靭帯損傷
16	試験後授業	解答、解説
17	下肢軟部組織損傷	膝十字靭帯損傷
18	下肢軟部組織損傷	膝半月板損傷
19	下肢軟部組織損傷	腓腹筋損傷
20	下肢軟部組織損傷	アキレス腱断裂
21	下肢軟部組織損傷	足関節外側靭帯損傷
22	体幹部の骨折	肋骨骨折
23	評価法	視診、触診、計測、ROM、MMT、ADL、異常音、神経学的検査等

24	各種徒手検査法	ジャクソンテスト、スパーリングテスト、S L Rテストなど
25	各種徒手検査法	ジャクソンテスト、スパーリングテスト、S L Rテストなど
26	高齢者の外傷予防	高齢者の外傷の特徴
27	高齢者の外傷予防	高齢者の外傷の注意点
28	高齢者の外傷予防	高齢者の外傷の予防
29	競技者の外傷予防	競技者の外傷の特徴
30	競技者の外傷予防	競技者の外傷の注意点
31	競技者の外傷予防	競技者の外傷の予防
32	試験後授業	解答、解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	臨床実習Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	臨床実習Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	柔整科		45
使用教材				出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	福祉施設や接骨院などへ実習に行き、患者さんとの接し方、業務の進め方などについて学ぶ。				
到達目標	患者さんとの接し方、業務の進め方などを理解し説明できる。				
評価基準	実習への参加姿勢や実習参加日数、提出レポート等を考慮して決定する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	全て				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	小向 啓介	実務経験	○		
実務内容	柔道整復師の免許を取得し、整形外科にて勤務後、自身で整骨院を開業。その後、柔道整復師専科教員の資格を所有し、学校教育に携わる。柔道二段。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
2	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
3	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
4	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
5	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
6	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習

7	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
8	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
9	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
10	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
11	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
12	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
13	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
14	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
15	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
16	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
17	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
18	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
19	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
20	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
21	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
22	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
23	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
24	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
25	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習

26	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
27	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
28	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
29	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
30	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
31	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
32	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
33	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
34	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
35	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
36	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
37	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
38	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
39	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
40	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
41	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
42	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
43	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
44	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習

45	臨床実習	福祉施設や接骨院などへの実習
----	------	----------------